

農政の動き 2016年3月7日～3月10日

◇農産物の輸出金額 伸び率鈍化◇

農林水産省は、2016年1月の農林水産物・食品の輸出金額（速報値）は前年同月比4.7%減の524億円だったと発表した。前年同月を下回るのは13年2月以来、2年11カ月ぶり。15年1～12月の輸出金額は、円安や海外での日本食ブームが後押しとなり、過去最高の7452億円を記録したが、16年は厳しいスタートとなった。主な減少要因は水産物が17.4%減の161億円に落ち込んだこと。天候不順でホタテの国内生産量が大幅に減少したことが影響した。ただ、農産物も2.9%増の349億円で、伸び率が鈍化している。（2016年3月7日）

◇韓国で新たに口蹄疫 衛生管理徹底を呼びかけ◇

口蹄疫の発生が続く韓国で、新たな発生が確認された。韓国政府の発表によると、忠清南道論山市の豚農場（飼育頭数3千頭）で7日に疑い例が見つかり、その後の検査で確定した。韓国での発生は、1月以降で計6例目。農林水産省は、生産現場に飼養衛生管理の徹底などを呼びかけている。（8日）

◇15年産牧草収穫量 4%増の2609万2千ト◇

農林水産省は、2015年産牧草の収穫量は前年産比4%増の2609万2千トだったと公表した。作付面積は前年産並みだったが、北海道が好天となり10ヘクタール当たり収量が4%増加した。青刈りトウモロコシの収穫量は、前年産並みの482万3千ト。ソルゴーは8%減の72万8600トで、作付面積が4%減少し、九州の低温・日照不足の影響で10ヘクタール当たり収量も3%下回った。（8日）

◇15年中の13災害を局地激甚災害に指定◇

政府は閣議で、2015年中に発生・終息した豪雨や台風などの13災害を局地激甚災害に指定した。新たに対象となったのは23市町村（適用措置の追加含む）で、農地・農業共同利用施設などの復旧事業への国の補助率かさ上げなどを措置する。（8日）

◇4～9月の輸入小麦価格平均7.1%引き下げ◇

農林水産省は、2016年4～9月の輸入小麦の政府売り渡し価格を15年10月～16年3月に比べ、主要5銘柄平均で7.1%引き下げると発表した。2期連続の引き下げで、前年同期比では12.8%安。小麦の国際相場や海上運賃の下落を反映した。5銘柄の平均価格は、トン当たり5万2610円で、日本めん・菓子用（2銘柄平均）は7.1%安の5万4620円、パン・中華めん用（3銘柄平均）は7.1%安の5万1620円。（9日）

◇政府備蓄米3年連続で全量落札◇

2016年産政府備蓄米の買い入れ予定数量22万5千トが確保されたと、農林水産省が発表した。8日の第4回入札で残りの1474トが落札された。全量落札は3年連続。（9日）

◇外食での食べ残し割合 宴会が14.2%で最多◇

農林水産省は、2015年度の外食での食品の食べ残し割合（提供量に占める食べ残し量）を公表した。宴会が14.2%で最も多く、結婚披露宴は12.2%、食堂・レストランは3.6%だった。1

食当たりの食品別割合は、宴会は「穀物」が18.2%で、「野菜」は18.1%、「飲料類」11.8%の順。結婚披露宴は「野菜」が19.2%で最も多く、「果実」は18.0%、「穀類」は16.9%だった。(10日)